

知的財産報告書 2010年版



2010年 8月

井関農機株式会社

目 次

ごあいさつ	1
1. 研究開発の指針	2
2. 研究開発の方向性	2
3. 知的財産状況	4
4. 技術の市場優位性の分析	5
5. 研究開発及び知的財産体制	8
6. 知的財産の取得・管理、秘密保持	9
7. 特許の活用	10
8. 知的財産ポートフォリオに対する方針	12
9. 知的財産関連の訴訟情報	12

知的財産報告書 2010年版 発行にあたって

井関グループは、「農業と農業機械」を経営の基軸とし、その開発、生産、販売を通して商品の機能・性能・品質・コスト・サービス競争力を強化し、商品の差別化や優位性の確保による市場競争力の向上に努めております。農業機械、農業関連商品等のコア技術の創造活動と、その活動で得られた知的成果である発明や創作等を戦略的な知的財産活動によって権利化と活用を図り、新たな創造に繋げる知的財産を重視した事業活動に取り組んでいます。

「知的財産報告書 2010年版」では、コア技術と研究開発の取り組み、特許資産管理、有効発明の発掘・権利化活動、商品デザインの取り組み、商標の取り組み、人材育成、秘密保持、権利の活用、グローバル化への対応、保有特許権や発明表彰、知的財産に関するリスク情報等についてご報告します。

[注意事項]

1. 本報告書は情報提供を目的としており、本報告書により何らかの行動を勧誘するものではありません。
2. 本報告書に記載されている当社の見通し、計画、方針、見込み、戦略、事実認識等、将来に関する記述をはじめとする分析は、当社が現在入手している予測、想定、計画等の情報に基づくものであります。
3. 予測を行うには、すでに実現した事実以外に、一定の前提を使用しています。その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現するという保証はありません。その前提は、内外国の技術や需要動向、経済情勢、競合等の状況にかかわるものであり、前提が変化する結果、本報告書で述べられている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。
4. 本報告書に記載している特許公開件数、保有権利数等の知的財産データは、当社単独によるものであり関連会社を含んでいません。

ごあいさつ

当社は1926年創業以来、農業機械の総合専門メーカーとして一貫してわが国農業の近代化を追求してまいりました。その過程のなかで数々の農業機械を他に先駆けて開発し、市場に供給しております。

世界人口の増加と食糧問題、また今日の食料自給率や国土保全の問題を考えると、農業機械メーカーの社会的使命はますます重要になってくると考えております。「需要家に喜ばれる製品の提供」を通して、わが国ならびに世界の農業に貢献することを経営の基本理念としてこれからも活動을続けてまいります。

井関グループは現在、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、その他の事業として疎植栽培などのように農家の皆様にとって有効な農業技術の提案を行うなど、ソフトの分野でも積極的な事業活動を展開しております。これらの事業活動について、お客さま、株主の皆様、投資家・アナリストの方々をはじめとするステークホルダーの皆様に対し、経営戦略や活動の成果などの企業情報の積極的かつタイムリーな開示に努めております。

従来より決算発表や有価証券報告書において、また会社説明会や新商品発表会などの機会を通じて研究開発活動と成果をご報告しておりますが、本書では、井関グループの研究開発の考え方、活動、成果としての知的財産の状況と活用等についてご報告いたします。井関グループの研究開発及び知的財産を重視した取り組みを皆様にご理解頂ければ幸甚に存じます。

特許行政年次報告書2010年版が公表され、当社は、特許査定率では2004年から6年連続第1位となり、分野別出願公開数では、2000年～2006年の農水産分野7年連続第1位に続き、農水産分野を含む新しい分野編成の「その他の特殊機械分野」で2007年及び2008年も第1位となりました。

今後も「需要家に喜ばれる製品を提供する」ため、技術革新を進め、知的財産の取得に努めると共に、その有効活用を図り、魅力ある商品開発に取り組んでまいります。



2010年8月
代表取締役社長
浦生誠一郎

1 研究開発の指針

わたしたち井関グループは変貌する農業の中で、「農業機械を通じて社会に貢献する」という使命を抱き、技術者一人ひとりが「技術精神」に則って創造的な研究開発を行っています。蓄積した全ての技術を活用し、お客様の視点に立った顧客満足度の高い商品とサービスを提供することにより、農業に貢献してまいります。そして、これからもずっと農業とともに歩んでまいります。

農業機械を通じて社会に貢献

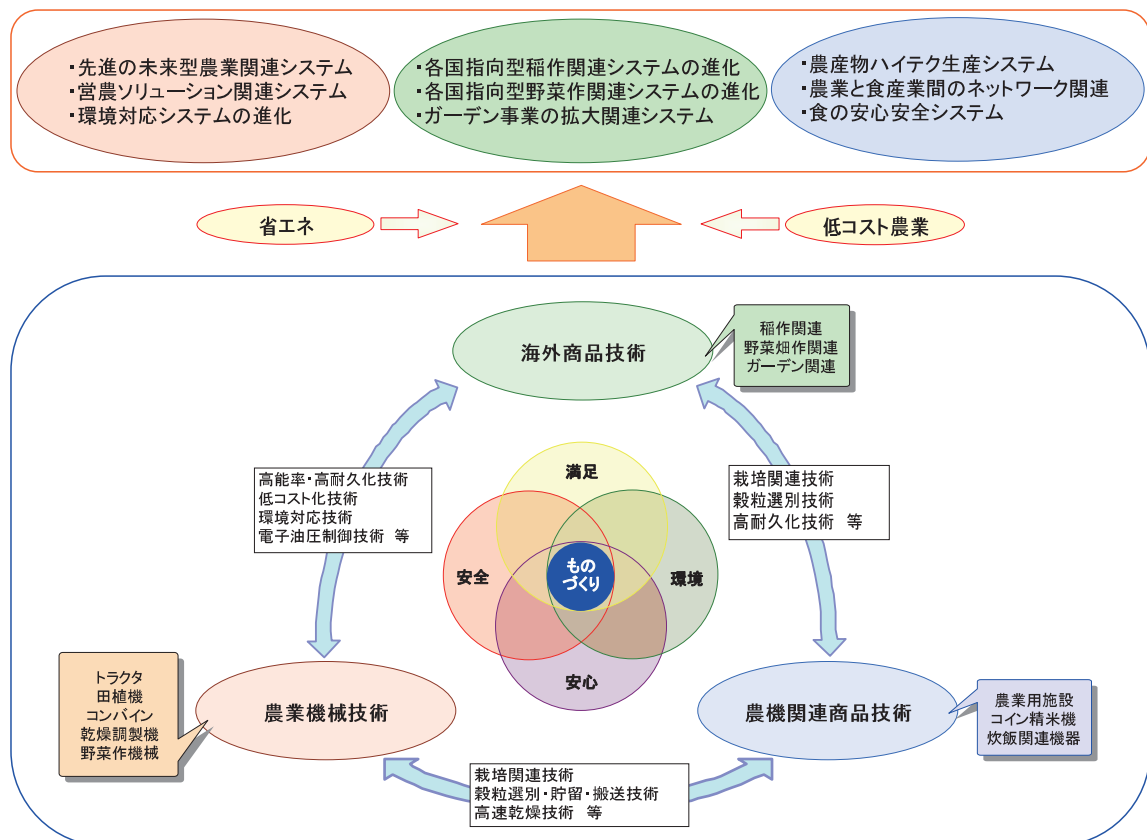
創造的研究開発

技術精神
・常に一步を先んじる
・商品理念に徹する
・技術総力を発揮する
・アイデアを売り込む

研究開発投資については、中長期的展望に立って需要と市場動向を予測し、計画的な投資を行っています。なお、2009年連結会計年度の研究開発費は約40億円であります。

2 研究開発の方向性

農業機械技術、農機関連商品技術、海外商品技術の全ての領域において、「満足」、「安全」、「安心」、「環境」の4つのキーワードを「ものづくりの原点」とし、3つの領域にそれぞれ方向性を定め、研究開発を推進しています。特に、「低コスト農業」「省エネ」に重点を置いた研究開発により「豊かで持続発展可能な社会」の実現を目指します。



1. 農業機械技術

- 1) **トラクタ** 振動・騒音低減化による作業環境改善技術、重量軽減等による燃費向上・排気ガス処理装置搭載等による環境対応技術、変速・操作性に優れた人に優しい新変速技術、水田・畑作管理作業に優れた走行性向上技術や作業精度向上技術、担い手農家への経営支援技術の研究開発に取り組んでいます。
- 2) **田植機** 自律直進制御技術、作業負荷を軽減する省力化制御技術、大規模担い手向けの高速・高精度植付技術、エンジン制御及び電動化等による省エネ・環境対応技術、低コスト農業支援技術、田植前後作業の省力化技術の研究開発に取り組んでいます。
- 3) **コンバイン** 機体の軽量化・エンジンの冷却効率及び燃焼効率の向上・排気ガス処理装置搭載等による環境対応技術、脱穀装置の穀粒回収率向上による低コスト農業支援技術、ユニバーサルデザインを追求した操作性向上技術の研究開発に取り組んでいます。
- 4) **乾燥機** 高速乾燥技術、乾燥エネルギーの効率的利用技術、低騒音・低振動を追求した作業環境改善技術などの研究開発に取り組んでいます。
- 5) **野菜作機械** 水稻技術で培ったノウハウを活用して、育苗・土作り・移植・栽培管理・収穫・調製の野菜作一貫体系を進め、操作性・作業性向上技術、低コスト・省力化技術、環境対応技術、地産地消支援及び新たな作物への研究開発に取り組んでいます。
- 6) **耕うん機・管理機** 環境に優しく、かつ取り扱いやすさを追求した技術、作業形態に合わせた多様なアタッチメントの研究開発に取り組んでいます。
- 7) **エンジン** 農業機械特有の作業性能を最大限に発揮するエンジン制御技術、排気ガス処理装置の搭載及び燃料噴射制御等による排気ガスのクリーン化技術に取り組んでいます。

2. 農機関連商品技術

高品質・高収量を目指した農産物ハイクラス生産システムの環境型植物工場、農業施設用情報化技術、バイオマス関連技術、播種育苗施設の省力化技術、野菜育苗の多品種汎用技術、乾燥調製施設の異種穀粒混合防止技術、食の安心安全を配慮した環境関連技術、コイン精米機の手搗き選択の広範囲化技術、省力化・高速化を実現する高機能型洗米炊飯関連技術の研究開発に取り組んでいます。

3. 海外商品技術

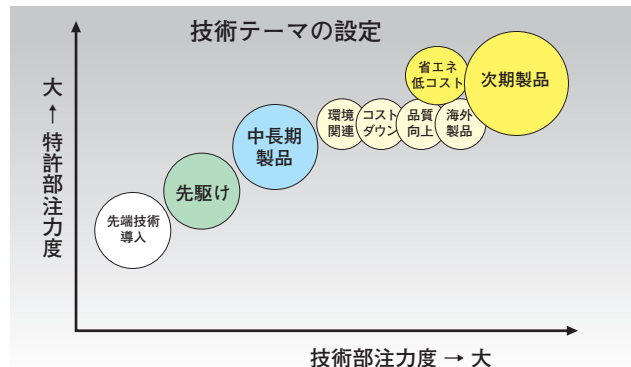
欧州・北米向けにはローダー等重作業機装着時の操作性向上を追求したトラクタや低振動・低騒音を追求したトラクタ、各国に最適な仕様を追求した低コスト型トラクタ、コレクタの脱着を容易化したガーデン機械、中国向けには現地特有の作物条件や圃場条件に対する適応性を向上させ作業の能率向上と省力化を図り、油圧系や作業部等の高耐久化やメカ制御技術等による低コスト化を追求したコンバイン・田植機・野菜作機械、韓国・台湾向けには高速作業技術・高精度作業技術等の高能率化・高機能化を追求したトラクタ・コンバイン・田植機、東南アジア向けには現地条件の適応性を追求した高耐久・低コスト型のトラクタ・田植機の研究開発に取り組んでいます。

3 知的財産状況

1. 発明の創出・特許戦略

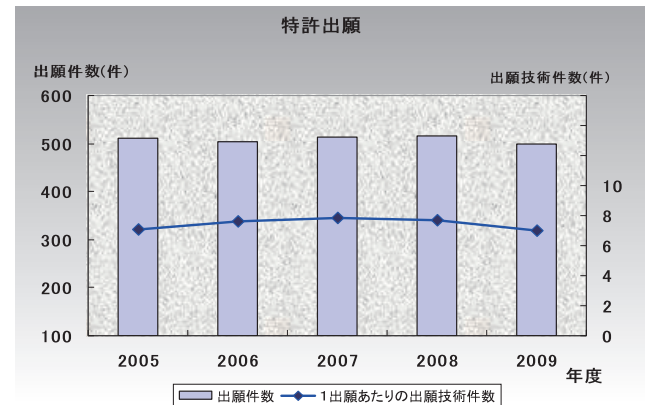
当社は、コア技術を中心とした技術テーマ毎に創造性手法を用いた独自の発明提案活動を推進し、発明の「質」の向上と「量」の拡大を図っております。

技術者は発明・創作に対する強いこだわりと旺盛な意欲を持っており、近い将来実用化する技術に関する発明が活発に創出されています。提案された発明は社内規程と審査基準に基づく厳しい選別を受け、当社独自の特許出願効率化策を用いて積極的に出願し、特許網の構築を進めています。



2. 意匠・商標戦略

魅力あるデザインと親しみ易いペットネームはそれぞれ意匠権、商標権として蓄積し、他社商品と差別化・識別化し、デザインの保護強化及び当社ブランド価値の向上を図っています。



商品デザインの考え方

- デザインの基本 ・使用環境にマッチした魅力ある商品 ・長く使って、より愛着を感じて頂ける商品
- デザインの進め方 ・現場の確認、市場の声 ・デザイン動向の分析とコンセプトの構築
- デザインの展開 ・井関らしさの継承(商品特性、商品カラー) ・時代性を感じさせる新しい魅力の創造
- デザインの方向性 ・魅力を感じ、使ってより満足して頂けるデザイン ・農業機械の未来を先取りしたデザイン

商標の取り組み

ペットネームの考え方

- ・農家にとって農業機械は共に仕事をするパートナー
- ・土を作り、苗を植え、管理し、収穫から出荷までの日々の作業で、親しみと愛着あふれる農業機械

当社の代表的な登録商標

- ・田植機の代名詞ともなった「さなえ」 ・世界にも類のない自脱型コンバインの火付け役となった「FRONTIER」
- ・代表的トラクタの「ジラス」 ・耕うん機の「エレ菜」 ・乾燥機の「ドライボーイ」 ・籾すり機の「スーパーメイト」
- ・計量選別機の「ポリメイト」 ・野菜移植機の「ナウエル」 ……など

時代に先駆けた戦略

- ・農業構造の二極化、低コスト農業・省エネに対応する販売戦略に連動したペットネームの設定

3. 海外知的財産戦略

海外においては、中国等のアジア諸国、米国、欧州をターゲットとした事業戦略に整合する厳選した特許権・意匠権・商標権等の知的財産権の取得を進めています。

4 技術の市場優位性の分析

1. 農業機械技術

2009年度市場に投入したトラクタ、コンバイン、田植機、耕うん機等について、特徴とその織込み技術を紹介します。

1) トラクタ 大規模担い手向けトラクタTJWシリーズの機能向上を行いました。副変速レバーにメインクラッチを入り切りするクラッチボタンを設けて操作性を向上しました。好評の「メモリー変速」及び「アクセル変速」の機能を向上してきめ細かな変速制御を実現し、多様なニーズに応えます。

メモリー変速 前回の圃場で作業していた主変速位置を記憶し、圃場を移転しても主変速の操作を行わず作業を再開でき、わずらわしい主変速チェンジ操作が不要で、余裕のある高能率な作業を実現します。さらに、オペレータが好みの主変速段数を記憶して設定可能にする機能を加え、作業に合った変速段を速やかに決定します。

アクセル変速 電子ガバナがエンジン回転速度を最適に調整し、制御装置が最適な主変速を選択して自動変速をするため、変速ショックの少ないスムーズな加速が行え、路上走行を快適に行えます。また、主変速の選択幅を標準の4段設定から6段設定まで拡大でき、きめ細かな変速が可能となり、路上走行が快適になります。

2) 田植機 好評を博している先進のZ機能を備えた「乗用田植機PZシリーズ」に、新たにプロの農家の方々に納得いただける高性能の10条植えの乗用田植機「PZ100」を開発しました。「さなえスーパーZターン」・「さなえZシフト」・「さなえZロータ」を備え、プロの要求に応える余裕の高精度作業を実現しました。

さなえスーパーZターン ハンドル操作だけで旋回から植付けまで全自動のさなえZターンに、圃場で一点旋回が行える片ブレーキ&クラッチを装備し、旋回時の煩雑な操作を省き効率的な作業ができます。また、圃場四隅での旋回や圃場の出入り時にオペレータが意のままに旋回をコントロールできます。

さなえZシフト 前後進ノークラッチで発進・停止・車速微調整ができ、停止から最高速まで滑らかに変速できる「HST(油圧式無段階変速機構)」、車速に適した回転速度まで自動でエンジン回転数を制御する「オートアクセル」、ワンタッチ操作で植付部を上下できる「マルチ操作」の3つの機能を一つのレバーに集約しているので、作業性が良く、一つのレバーを握ったままで変速操作や植付部上下操作が行え、圃場の出入りが安心です。

さなえZロータ 中央整地ロータを前側、左右整地ロータを後側に配置し、整地ロータを装備した植付部を昇降制御するセンサーであるセンターフロートの面積を大きく確保したので、高精度で昇降制御が行え、泥押し・波立ちを抑えながら圃場を整地し、枕処理、挟雑物の多い圃場で綺麗な植付けができます。また、植付部を折りたたんでから左右整地ロータの外端部を折りたたむ左右幅縮小機構により、路上走行やトラックへの積込あるいは倉庫格納時に機体をコンパクトに収納することができます。

また、乗用田植機PZシリーズで好評を博している先進のZ機能を備えた成形ポット田植機「PZP80」を開発しました。さなえスーパーZターンの機能をさらに進化させた「さなえミラクルZターン」を装備し、また、23馬力ディーゼルエンジンを搭載し、成形ポット田植機として車速1.1 m/sの高速化を実現し、高能率化を図っています。

さなえミラクルZターン ハンドル操作だけで旋回から植付けまで全自動のさなえZターンに、適正な回転速度となるよう旋回内側車輪の駆動制御機構を装備し、旋回時の泥の持ち上げを少なくし、圃場を荒らさない綺麗な旋回ができます。

- 3) コンバイン** かつてない作業能率を誇る、業界初の7条刈りコンバイン「Japan HJ7120」を開発しました。国内コンバインで最強の120馬力コモンレール式インタークーラターボエンジンを搭載し、井関独自のツインエイトスレッシュャ、スイング&ズームオーガ、アイタッチに加え、「電子制御HST」、「防塵スクリーン」、「フィードチェン2段変速制御」を備えて大規模担い手農家の期待に応えます。

電子制御HST 変速レバーの操作角度に応じて走行用のサーボ付HSTを電氣的に変速制御することで、操作力を軽減しました。また、HST自体に副変速機能を備え、走行を停止することなく副変速操作が行え、よりスムーズに作業できます。また、作業負荷に応じて車速を自動制御するので、エンジンの回転速度が安定し、選別性能が向上します。

防塵スクリーン ラジエータの防塵ネットに吸い付けられた藁屑を、スライド式の除去装置によって1箇所を集めてから吸引し、防塵ネットの目詰まりを防止して冷却効率を高め、エンジン出力を最大限に発揮できます。

フィードチェン2段変速制御 刈取部の回転速度に応じてフィードチェンのスピードを2段階に変速制御し、低速作業時に搬送穀程の姿勢が安定するだけでなく、手抜き作業がゆとりをもって行えます。

また、コンパクトなボディに一クラス上の装備と操作性を備えた「フロンティアビバ HVFシリーズ」を開発しました。井関独自のビッグタンク、リモコン分草杆、イージーシフトに加え、「刺さり粒回収室」、「ツインパネル」、「刈取フローティング」を備え、作業能率を高めています。

刺さり粒回収室 扱胴を後方へ延長し、後端部に刺さり粒回収室を備えたので、穀粒が排莖中に刺さり込んだまま排出される4番ロスを大幅に低減でき、穀粒の回収効率が高まります。

ツインパネル 走行に関係するスイッチ類と作業に関係するスイッチ類を、操縦席前方の左側と右側に分け、それぞれ集中的にレイアウトしたので、容易且つ正確に操作できます。

刈取フローティング 刈取部を地面の凹凸に接地追従させることで、刈高さの調節が不要となり、刈取後の切り株を低く均一に揃えることができます。

- 4) 野菜作機械** 野菜移植機では、無段階の条間調節機構、条間の調節に合わせて鎮圧輪のセンシングにより植付ける畝上面に追従させる自動ローリング制御・昇降制御、旋回時の機体の上昇に連動して機体を水平にする水平自動復帰機構を備えた乗用2条半自動野菜移植機「PVHR2-140LLG」を開発し、作物適応性向上及び作業体系適応性向上を実現しました。

また、植付同時灌水装置、自動と手動に切替できる水平制御を搭載した乗用2条半自動野菜移植機枝豆仕様「PVHR2-120EL2G」を開発し、苗の活着性向上及び圃場条件適応性向上を実現しました。

野菜調製機では、にんじんを選別に適した姿勢と間隔で選別装置に供給搬送する整列装置、検出重量を簡単に設定可能な天秤式重量感知センサーを備え、整列装置と選別装置をベルト搬送方式としたにんじん高速選別機「VSC-107, 212」を開発し、低騒音・高能率・高精度なにんじん選別を実現しました。

また、各地域特産物に対応した野菜作機械の研究・開発を行い、移植から調製までの野菜作一貫体系の研究開発に取り組んでいます。

5) 耕うん機 農業初心者にも使い易く、家庭菜園向けに、電動ミニ耕うん機「エレ菜」「あすな」を開発しました。電動モータのため、排気ガスを出さず、またガソリンの補給やオイルの交換の必要も、油汚れも無いため、人や環境に優しい耕うん機です。また、機械音が小さく、住宅街の庭でも周囲に気兼ねなく耕うん作業を行えます。さらに「簡単充電バッテリー」「簡単移動のコンパクトボディ」「簡単始動」「安全装置」などの特徴を備えています。

簡単充電バッテリー バッテリーがワンタッチで着脱でき耕うん機から取り出して家庭用電源で充電が行えます。

簡単移動のコンパクトボディ 操作ハンドルを折り畳むと車の後部に収容でき、持ち運びに便利で移動が簡単に行えます。また、耕うん爪を覆うクリーントレイを装備し、移動時は土をこぼさずに移動できます。

簡単始動 キーを回し操作ハンドルと共にレバーを握ると耕うん作業を開始でき、操作ハンドルから手を離すと停止するため簡単な操作で安全に耕うん作業を行えます。

安全装置 爪軸に異物がはさまった場合など過負荷になるとブレーキが作動し、安全確保と機械を保護するために自動的に停止します。

2. 農機関連商品技術

2009年度に開発した農業用施設に関する商品の特徴及び今後の取り組みを紹介します。

1) 農業用施設 苗を確実に固定して適正に切断し、苗の接合面を合わせる機構を装備した半自動接ぎ木ロボット「GR803-U」を開発しました。更に、苗の子葉の方向及び苗の高さを揃え、無人で苗の切り出しから接ぎ木まで行う全自動接ぎ木ロボット「GRF800-U」を開発し、全自動により従来比3倍の作業能率(省力化)を実現しました。

また、「農作物ハイテク生産システム」を愛媛大学と共同研究しており、新たに愛媛大学での植物工場設計工学講座(寄附講座)を設置し、高糖度トマト栽培技術の確立や「自走式植物生育診断装置を含む知的植物工場システム」の研究を進めています。

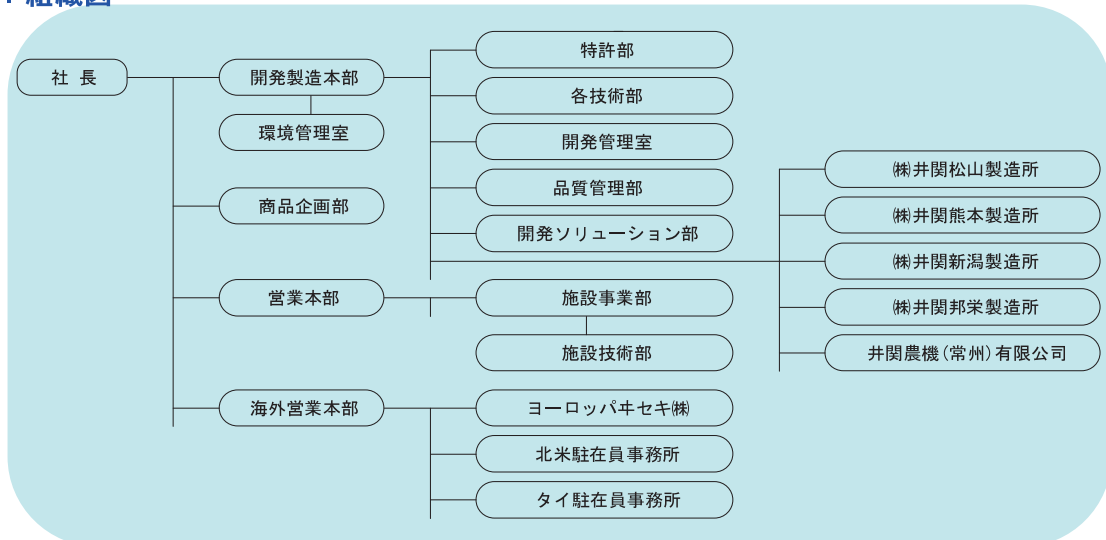
3. 海外商品技術

2009年度海外に投入した商品の特徴及び開発の現況につき、各国別に紹介します。

- 1) **欧州・北米・豪州** 欧州・豪州向けにHSTの変速操作性を向上したトラクタTMを開発しました。欧州向けモータースXGのコレクタからの刈り草排出性を向上しました。北米向けに新機能を折り込んだ無段変速トランスミッションのトラクタを開発しています。
- 2) **中国** 馬力アップを図りながら低価格化を実現した6馬力エンジン搭載の歩行田植機PC6を市場に投入しました。また、中国の農業情勢に合わせた田植機を開発しています。また、高馬力・高能率・高耐久コンバインHF608・558の脱穀選別能力を高め、穀粒回収率を向上させる技術を開発しています。
- 3) **台湾** 低燃費型エンジンを搭載したトラクタを開発しています。また、高能率・高耐久の大型田植機・コンバインを開発しています。
- 4) **韓国** 低燃費型エンジンを搭載したトラクタを開発しています。また、20馬力のエンジンを搭載して車速アップを図った高耐久・高能率の田植機PZ60を開発しました。また、高能率・高耐久・高機能の大型コンバインを開発しています。
- 5) **東南アジア** タイ・マレーシア向けに耐久性を向上し、専用ミッションを搭載したトラクタAT5520, 5470を開発しました。また、マレーシア向けに、低価格で現地特有の作業条件・圃場条件に適応させた高耐久の田植機PZ60を開発しました。

5 研究開発及び知的財産体制

1. 組織図



2. 研究開発体制

1) 商品開発・技術開発担当

井関グループは、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、井関グループが展開している事業に関する研究開発は、主に当社で行っております。

2) 海外商品開発ネットワーク

当社と欧州、米国、中国、東南アジア地域との開発ネットワークにより、グローバルな技術開発の推進体制を構築し、技術関連情報の収集と海外商品に対する研究開発のスピードアップを図っています。



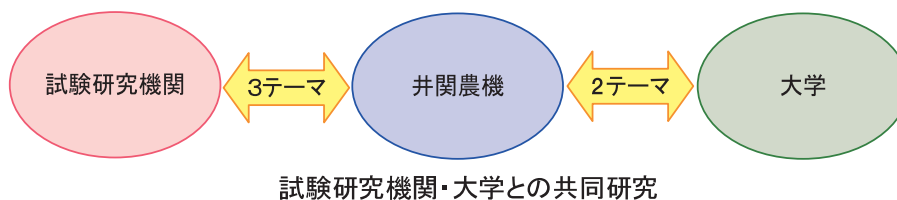
3. 知的財産体制

1) 管理体制 特許部は、開発製造本部に所属し、当社及び関連会社を含む井関グループ全体の知的財産の管理・指導・教育を行う一元管理体制をとっております。

2) 人材育成 井関グループ方針として「井関グループ総合力の発揮」を掲げ、その根幹である人材育成に注力しています。特許部員、技術者、新入社員、製造会社、販売会社に対する知的財産・創造性教育を通じ井関グループ全体の創造性の活性化と技術総力の向上に努めています。

4. 産学官連携

当社は、コア技術について、独自開発を原則としていますが、コア技術の一部やコア技術に関連する領域については大学や試験研究機関等と共同して研究開発を進め、研究開発の迅速化と効率化を図っています。



6 知的財産の取得・管理、秘密保持

発明考案、権利の取得・管理、企業秘密情報等についての取り扱いを、就業規則、職務発明取扱規程、商標取扱規程、井関グループ倫理行動規範、特許業務マニュアル等に定めています。故意若しくは重大な過失により違反した場合には罰則の対象になり、コンプライアンスの徹底を図っています。

発明者に対しては、就業規則、職務発明取扱規程、補償金支給評価基準等の運用による発明承継対価、実施補償、社内外の表彰等によって発明創作へのインセンティブを与えています。

また、発明の創作時から権利の放棄に至るまで多くの規程・基準により知的財産を厳格に管理しています。例えば、特許権の価値評価については、1995年4月に実施権利の価値を金額算定する「特許権の価値算定基準」を設け、社会通念に適合するように逐次見直ししながら自社の特許資産管理や権利交渉等に活用しています。

7 特許の活用

コア技術及びこれに関連する領域にある特許権については、自社製品の優位性の確保やクロスライセンスによる商品開発の円滑化により事業を成功させることに重点を置いています。この領域外の権利については、将来の実効性を考慮したうえで、ライセンス等による活用を図るなど、企業にとって最適な手段を採用しています。

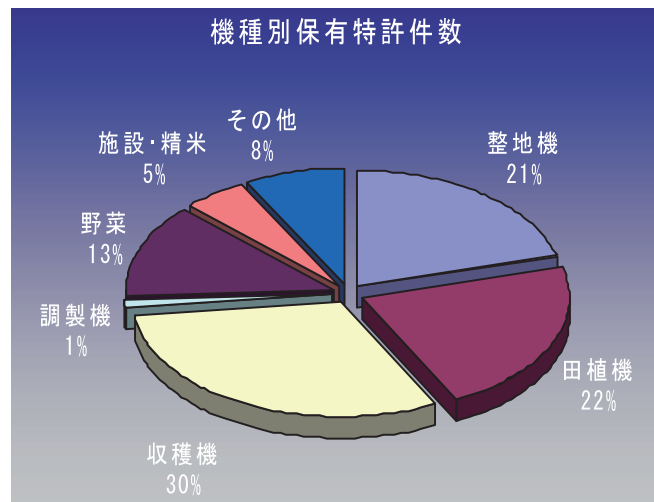
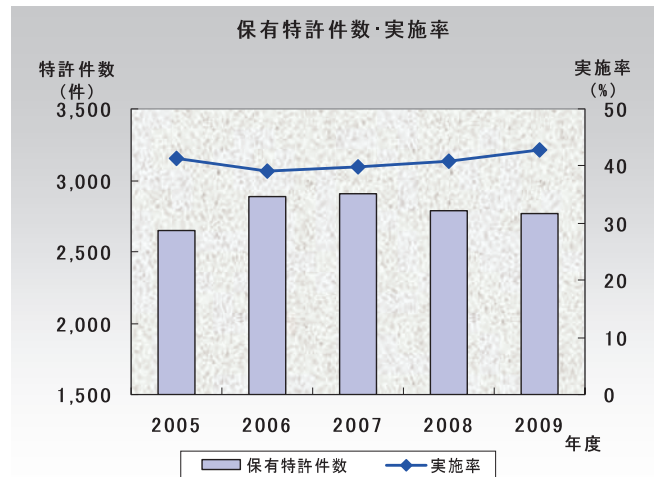
1. 特許保有状況

1) 国内

社内規程及び審査基準に基づいて厳選した発明を積極的に特許出願し、有効権利の取得と蓄積に努めております。2009年度は約2,760件となっています。

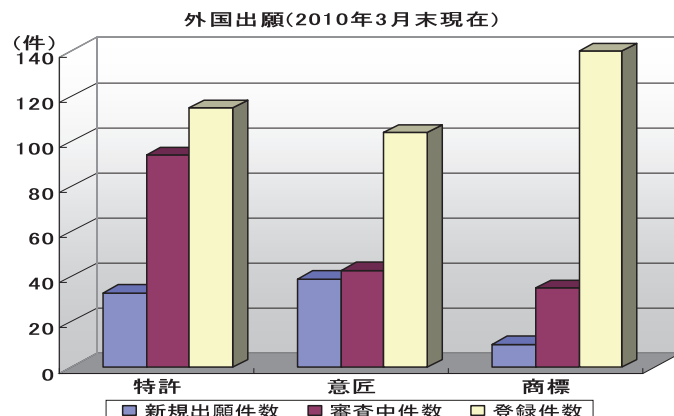
2010年3月末時点における主要3製品（整地機、田植機、収穫機）及び野菜作機械の保有特許件数は、当社全体の保有特許件数の86%を占めております。

事業戦略を重視した“強くて良い”特許網の構築を目指した知的財産戦略を実行してまいります。



2) 海外

欧州、米国、中国等のアジア諸国に厳選した知的財産の出願を行っています。保有権利数は、毎年増加しています。また、アジア地域に対しては、積極的に意匠、商標出願し、模倣排除に注力しています。



2. 特許査定率、特許出願関係

特許査定率では、6年連続で全産業中第1位です。

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009
特許査定率	84.6%	83.7%	90.4%	89.3%	85.8%	88.5%
順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

特許査定率＝特許査定件数／(特許査定件数＋拒絶査定件数＋取下・放棄件数)

* 取下・放棄件数＝拒絶理由通知の後に取下げまたは放棄した件数

また、日本における分野別公開数統計表において、2000～2006年の「農水産分野」で7年連続第1位に続き、分野編成が変更された2007年・2008年は「その他の特殊機械分野」で第1位です。

分野	農 水 産							※その他の特殊機械	
年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

※2009年版から分野編成が変更され、農水産分野は、「その他の特殊機械分野」に包含されます。

(特許行政年次報告書2002年版～2010年版)

3. 受賞の歴史

農業用機械技術の開発、育成、実用化による貢献に関連して国家勲章、国家褒章、科学技術功労者表彰、発明表彰、文部科学大臣表彰、農業機械学会表彰等を受賞する多くの技術者を輩出しています。

1952年には、創業者の井関邦三郎が(社)発明協会の全国発明表彰を受賞し、1993年には、当社が日本で始めて実用化に成功した自脱コンバインの開発と普及の功績として「農業試験研究一世紀記念会会長賞」(農水省、農業試験研究一世紀記念会共催)を受賞しました。

2008年には、当社の伝統である知的財産重視の経営が評価され、『知財功労賞』(産業財産権制度活用優良企業等表彰 特許庁長官表彰)を受賞しました。

(社)発明協会の表彰は毎年受賞しており、現在、全国発明表彰18件を含む186件の発明表彰を受賞しております。創業者の研究開発に対するフロンティアスピリットを脈々と受け継ぎ、知的創造活動による実用的な新技術の創出が当社の伝統になっています。

発明表彰受賞件数 186件(2010年3月末現在)

受賞内訳

○全国発明表彰 18件

特別賞	発明協会会長賞	1件
	朝日新聞社賞	1件
特 賞		2件
発明賞		14件

○地方発明表彰 168件

特別賞	文部科学大臣発明奨励賞(前科学技術庁長官発明奨励賞)	9件
	特許庁長官奨励賞	5件
	経済産業局長賞(四国通商産業局長賞)	7件
	発明協会会長奨励賞	7件
	日本弁理士会会長奨励賞	4件
	合計	32件
	支部長賞	10件
	優秀賞他	37件
	発明奨励賞	88件
	奨励功労賞	1件

4. 受賞関係

○(社)発明協会 平成21年度四国地方発明表彰

発明協会愛媛県支部長賞1件

特許第3146924号 コンバインの脱穀装置

発明奨励賞3件

特許第3821068号 遠赤外線穀粒乾燥機の安全制御装置

特許第3460399号 苗植機の間欠植付装置

特許第3424340号 施肥装置の肥料詰まりセンサー

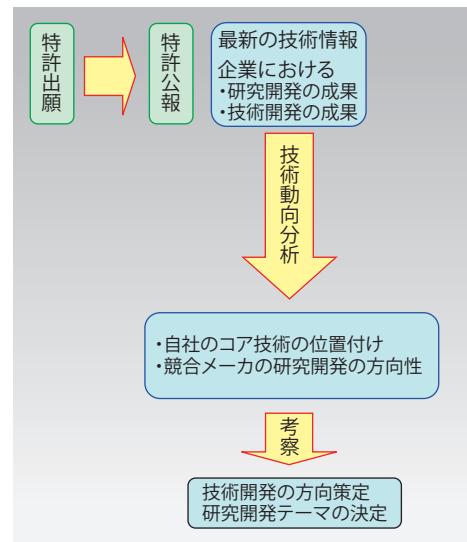
8 知的財産ポートフォリオに対する方針

1. 技術動向

競合他社の技術動向を分析し、自社のコア技術の位置付けを明確化するとともに、競合メーカーの研究開発の方向性を明らかにし、研究開発テーマや技術開発の方向を策定するなど、技術・企画を含めた全社の共有情報として事業戦略・研究開発戦略の構築資源としています。

2. 技術テーマの設定

コア技術、コア技術に関連する有望技術、市場動向等から開発・営業を含む全社の総意に基づいて技術テーマを設定し、明確な目標を持って特許網を構築し、商品開発のプライオリティの確保を進めています。また、自社に蓄積されたコア技術の強みをポートフォリオ評価し、研究開発戦略の策定に寄与しています。



3. 海外知的財産の構築

各国別の市場動向や知的財産状況を分析し、開発・海外担当部門と連携してグローバルな事業活動の展開に伴った知的財産戦略を定めています。また、外国特許情報検索システムを活用し、各国における知的財産状況及び技術動向等から自社技術を評価し、各国毎に実効性の高い技術を出願し、有効権利の取得と蓄積に努めています。

9 知的財産関連の訴訟情報

国内外ともに経営に影響を与える知的財産権訴訟の継続中の案件はありません。事業、研究開発の推進にあたって、細心の注意をはらい、知的財産戦略を着実に実行いたします。

会社概要

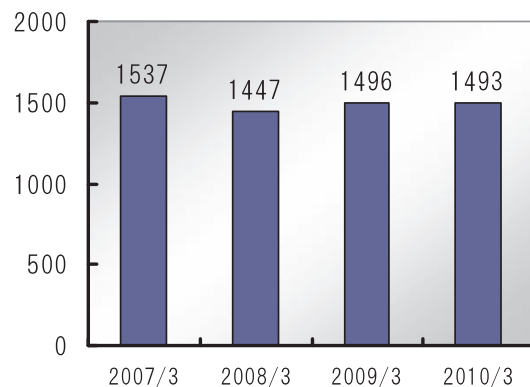
社 名	井関農機株式会社 (ISEKI & CO., LTD.)
本 社	愛媛県松山市馬木町700番地
本社事務所	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号
創 業	大正15年(1926年)8月
資本金	233億44百万円 (2010年3月31日現在)
従業員	連結:6,435名 (2010年3月31日現在)
事業内容	当社はつぎの製品の製造及び販売を主要な事業内容としております 整地用機械・・・トラクタ、耕うん機、管理機、芝刈り機 栽培用機械・・・田植機、野菜移植機 収穫用機械・・・コンバイン、バインダ、ハーベスタ、野菜収穫機 調製用機械・・・籾すり機、乾燥機、精米機、計量選別機、野菜調製機 その他・・・・・・作業機、補修用部品、農業用施設

開発製造に関係する関連会社

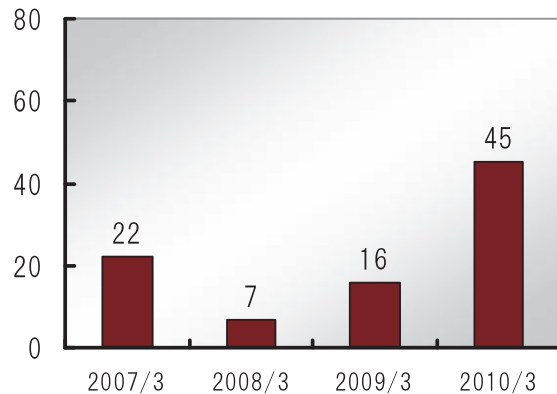
(株)井関松山製造所	井関農機(常州)有限公司
(株)井関熊本製造所	松山ファクトリーサービス(株)
(株)井関新潟製造所	(株)井関植木製作所
(株)井関邦栄製造所	

業績推移

■売上高(億円)



■営業利益(億円)





報告書に関するお問合せ先

井関農機株式会社 開発製造本部 特許部
〒791-2193 愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地
Tel. (089)956-9810 Fax. (089)956-9818
URL: <http://www.iseki.co.jp/>
E-mail: pat-matsuyama@iseki.co.jp